

# 二地域居住の実践例① <岐阜↔東京>

## 岐阜の魅力で東京から全国に発信したい

〔株式会社リトルクリエイティブセンター 高田桃子さん〕

- 岐阜県に本社のあるデザイン会社（株）リトルクリエイティブセンターに勤務する高田さんは、岐阜と会社が運営する東京上野にあるアンテナショップ『岐阜ホール』とを1週間おきに行き来する二地域居住を実施。
- 岐阜の工芸品や特産品をどうPRしていくのか、地元の人達と一緒に考えて、その魅力とともに東京で紹介し、そこから得た感想等を地元フィードバックすることまでを一つの仕事としている。
- “私だからこそできる仕事です” 結婚を機に地元岐阜から東京へ引っ越したが、岐阜に関わる仕事がしたいという思いと、岐阜の魅力を東京から発信したいという現在の会社との出会いが重なって、二地域居住が実現。同じように岐阜のことが好きで各地を巡る仕事をしている旦那さんの応援も受けて、二地域居住は楽しいと語る。

### LITTLE CREATIVE CENTER



岐阜ホール



### 「株式会社リトルクリエイティブセンター」について

- ▶ 広告やWEBデザイン、商品開発、ショップやまちのブランディング、イベントの企画運営を行う。岐阜県内の6市町と連携協定を結び、地域活性化に向けた活動も実施。
- ▶ 東京上野では、アンテナショップ「岐阜ホール」を運営、デザイン豊かな岐阜県ゆかりの商品を販売し、併設するカフェには岐阜好きが集まり、東京から全国に岐阜の魅力を発信するプラットフォームの役割をはたしている。
- ▶ 社員28人中5人が二地域居住を実施。移動は新幹線か車（納品時に乗り合わせ）で、東京滞在はホテル利用。費用は全額会社負担。
- ▶ 社員が約2倍に増える予定。東京にかかわりを持ちながら地方で働きたい（又はその逆）という人が多く、新しい場所からスタートする移住に比べて、互いの関係を持ち続けられる二地域での働き方を希望する若者が多い。
- ▶ 社員の生活に働き方を合わせ、残業が必要なら採用するというスタンスの社長。人を採用しすぎだと言われたことがあるが、労働の対価というより面白い人に投資をしている感覚。面白い人達が良い仕事をすることで、結果的に会社のメリットになっている。